

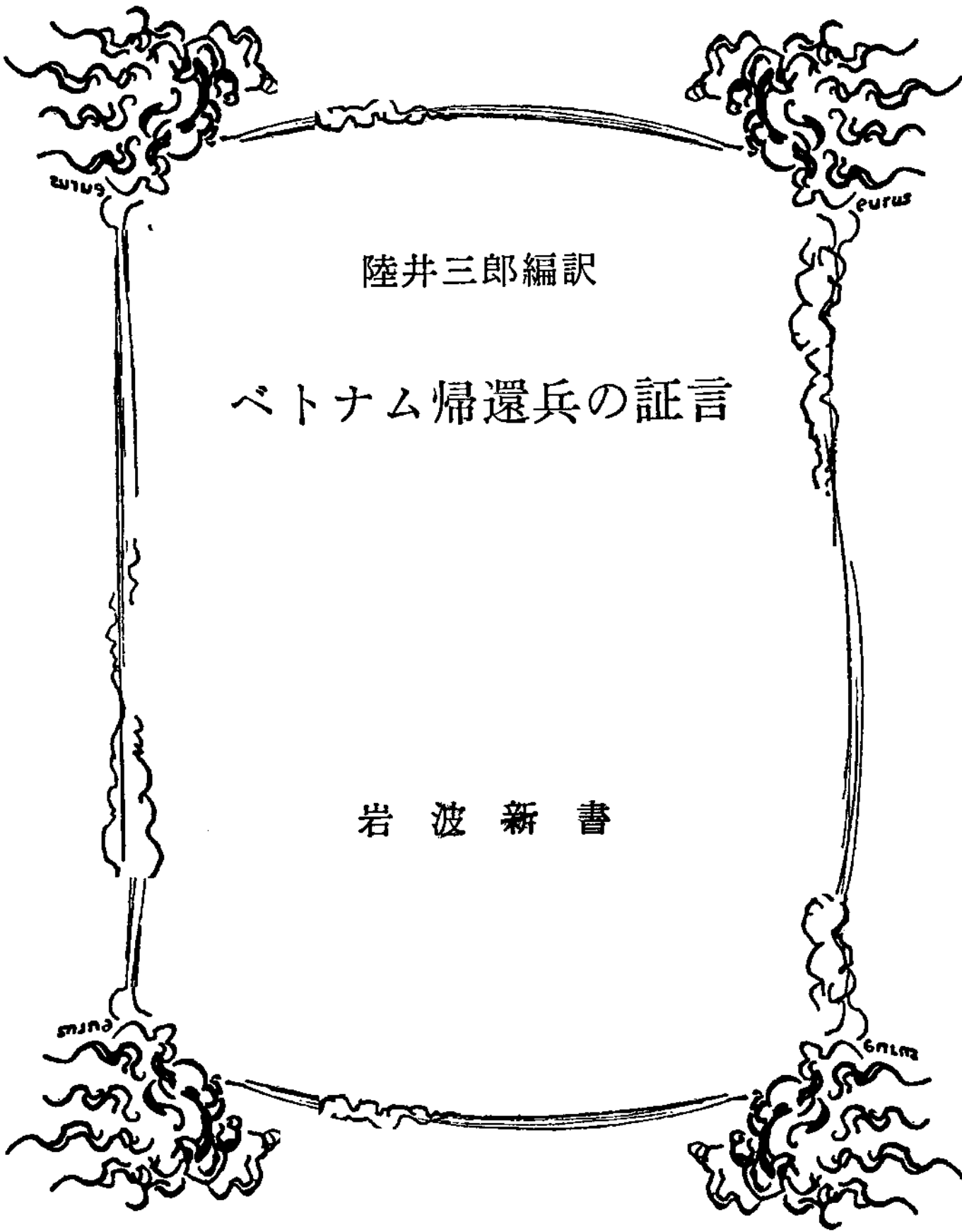
陸井三郎編訳

ベトナム帰還兵の証言



岩波新書

F 40



陸井三郎編訳

ベトナム帰還兵の証言

岩波新書

陸井三郎

1918年東京に生まれる

1940年青山学院高等商業部卒業

専攻—現代アメリカ政治

著訳書—ジョイス・コルコ「世界資本主義の危機」(上,下) チャールズ・フェン「ホー・チ・ミン伝」(上,下) (以上岩波新書)
「インドシナ戦争」
「大国と第三世界」

ベトナム帰還兵の証言

岩波新書(青版) 864

1973年7月20日 第1刷発行 ©

1983年2月10日 第10刷発行

定価 430 円

編 訳 者 ^{くが}陸 ^い井 ^{さぶ}三 ^{ろう}郎

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
発 行 所 緑 岩 波 書 店

電話 03-265-4111

振替 東京 6-26240

印刷・理想社 製本・田中製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan

日本の読者へ

「戦争に反対するベトナム帰還兵の会」(VVAW)は、二万人以上の帰還兵と支持者たちを会員とする全国組織です。この団体は五〇州の大半に支部があるほか、国際支部が日本のようなところにもあります。VVAWは、インドシナにおける戦争の惨禍に対応するために結成されました。ベトナムで兵役についた帰還兵たちは、アメリカの軍事政策の現場をじかに目撃する機会がありましたので、こうした帰還兵たちの反応は、たいへんな怒りとなって結実しはじめました。

それというのにもかかれは、自分たちが自国政府からウソをつかれていたということを知ったからです。こうした男たち女たちは、自分たちがじつは世界を共産主義から守っているのではなく、それどころか、全インドシナでおかされているジェノサイドの道具として利用されていることを悟りはじめたのです。

このような怒りはしだいに、政府の政策にたいする理解へと転換していきました。ばらばらの断片だった謎はかたちをとりはじめ、こうしてアメリカのインドシナ介入の規模からうかび

あがってきた姿は、帝国主義のそれになりました。VVAWの会員たちは、インドシナの戦争がそれ自体として問題なのではないことを悟りはじめました。そうではなくて、東南アジアでおこなわれている政策が、もっとずっと大きい問題の怖るべき徴候なのだということを理解したのです。

アメリカは帝国主義の諸政策によって、“第三世界”諸国の政治的管轄権を手に入れていきます。そのことは、南ベトナムにおけるアメリカ政府のチュウ政権支持をみれば容易に分ります。アメリカはいまでは、チュウを思うままに操っているのです。チュウの運命は、ひたすらかれがアメリカに協力するかどうかにかかっているほどです。かれが非協力的で強腰だとしたら、かれは一九六三年にゴ・ディン・ジエムがおちいったのと同じ運命に直面するかもしれません。同じような運命におちいりたくないなら、チュウは、アメリカ政府のかいらいとしての役割をつづけることでしょう。

インドシナ戦争の帰還兵たちは全インドシナで、右のようなアメリカの術策の実例をまのあたりに見ました。かれらは、自分たちがただアメリカ政府の領土的な勢力範囲を拡大するためにも、ベトナムの資源や人民を収奪するのに利用されていることを知りました。帰還兵たちはまた、ほんとうはだれが敵であるかを誤って理解するようにアメリカ軍部に仕向けられてきたことも悟りました。多くの帰還兵たちは、インドシナに自分たちのいることが、インドシナ

人民の民族自決を日日さまたげる手段になっていることを知るようになりました。ベトナム戦争に参加したアメリカ人は、インドシナ人民の正義の解放闘争——三国人民が帝国主義の支配からみずからの自由と解放をかちとるためにたたかってきたし、いまもたたかいつづけている闘争——を抑圧するために利用されたのです。

“冬の兵士聴聞会”は、一九七一年一月三日と二月一日、二日にミシガン州デトロイトでひらかれたもので、インドシナでアメリカが実施した政策を暴露するために、VVAWがおこなった調査の一つでした。

この調査は一〇〇人以上の帰還兵と一六人の民間人による証言で構成されていて、この人たちは、自分たちがおかししたり、目撃した戦争犯罪について語りました。証言全体の長さが一〇〇〇ページ近くにもなるため、本書は調査記録の要約です。このような要約でも、アメリカ軍部が一貫して自由発砲地帯、濃密爆撃、捕虜の虐待、戦略部落、等々のような犯罪的な戦時政策にかかわってきたことは分るでしょう。アメリカ政府はこれらの政策を“上官の命令”として設定し、さらに進んで、これらの政策の遂行のためにアメリカ兵士たちを非人間化するにいたりしました。

以下の証言ではまた、アメリカ軍部の側の人種差別と性差別がこうした非人間化の過程に内在していたことも、明らかにされるでしょう。アメリカ軍部の人種差別はきわめて広くいきわ

たっているのです、兵士たちは、インドシナ人民を人間以下のものとする考えをみとめるよう馴らされてきたのです。インドシナ人民は「グーク」や「愚かもの」にすぎないから、殺すのも容易だったというわけです。

アメリカ軍部の行動につきまとう性差別も、以下のページで婦人に対してだけおこなわれる戦争犯罪のタイプをしらべてみれば分ることです。ベトナム婦人にむけられた拷問や暴行のやりかたは、婦人をモノ以上の何ものでもないとする考えの典型です。ですから、男子が適当と思うどんな方法であつってもよいということになります。このような性差別と人種差別は、アメリカの政治、社会、軍の構造に深く内在しているので、インドシナ人民に非人間的に押しつけられたのです。

*

*

*

「冬の兵士聴聞会」は、VVAWの最初の活動の一つでした。そのときくらい、VVAWは長い道のりを歩んできました。私たちはいまも、アメリカの対外政策を暴露し、またこれとたたかう仕事を、アメリカ人民の教育、煽動、動員をつうじてやっています。「和平」協定が最近調印されましたが、私たちの仕事は完了したどころではありません。

ベトナムで実行されたのと同じような侵略が世界の他の地域で、フィリピン、中東、ラテ

ン・アメリカでひきつづきおこなわれるようにも見えます。帝国主義とそのあらゆる表現——人種差別や性差別のような——は、ただちにやめさせなければなりません。そしてそれが私たちの任務です。

私たちは、アメリカ政府のウソがもっと効果的に暴露され、理解されるように、ひきつづき私たちの基盤を建設し、強めていくつもりです。

最近、私たちは組織を拡大はじめ、帰還兵たちと並んで帰還兵以外をも完全に平等な会員として迎え入れました。これは必要かつ前進的な変更だったと考えていますので、このような基盤拡大にもなつて、私たちの名称にも変更がありました。VVAWはいまでは、「戦争に反対するベトナム帰還兵・冬の兵士の会」(The Vietnam Veterans Against the War / Winter Soldier Organization)です。会員の増加とともに、私たちの力量も大きくなるでしょう。私たちはわが国のさまざまなコミュニティに入りこみ、私たちが日常を共にしている男たち女たちを組織しています。私たちはまた、海外の私たちの仲間との関係をひきつづきつくっていかなければなりません。これが、私たちの「冬の兵士証言」の日本版の目的の一つです。

帝国主義は世界のどこでも打倒されなければなりません。それをやりとげるためには、私たちはみんな団結し、いっしょに働きはじめなければなりません。この本の読者のみなさんがアメリカ政府の政策について、またアメリカ軍のインドシナ派遣がつくりだした途方もない破

壊について、なんらかの啓示を得られることをのぞみます。私たちは、私たちの証言を日本人民におくすることをよろこんでいます。本書が皆さんの仕事——それは本質においては、自由な世界が現実のものとなるための、私たちすべての闘争ですが——にいくぶんでもやくだつことを願っています。

連帯の心をこめて

一九七三年六月二六日

戦争に反対するベトナム帰還兵・冬の兵士の会

全国本部イリノイ州シカゴ

目次

日本の読者へ

I 証言の意味

まえがき	M・ハットフィールド	三
証言することの苦しみ	D・ダンカン	七
戦争犯罪	W・クランデル	三

II 訓 練

うさぎの訓戒	 J・バンガート.....	二元
殺しの機械	 J・ゲーマン.....	三〇
訓練と命令	 J・ブジョンソン.....	三
パブロフの犬	 D・ドナー.....	三

III 人種差別

後方勤務……………	O・カリ……………	四二
フィールド・ニガー……………	W・ライト……………	四三
黒人だけではない……………	B・ロモ……………	四四
日系兵士の立場……………	S・シマブクロ……………	四五
グークの見本……………	M・ナカヤマ……………	四七
奇妙な心理状態……………	S・ムーア……………	四八
パン焼きか屍体処理か……………	T・ヘイジリン……………	四九

IV 報道

ニュース源をかくす……………	L・ロットマン……………	五五
私はラオスでたたかった……………	W・ヘンドリクソン……………	五三
カンボジアに入る……………	B・ペリー……………	六六

V 残虐(その二)

兵士のところ……………	S・ピトキン……………	七一
-------------	-------------	----

VI 残 虐(その二)

精神分析医にかかる	C・ステイヴンス	七
兵士のくらし	D・バツツ	七
焼き打ちの第五海兵連隊	T・ハイトマン	八
ヘリから突き落とす	S・ショア	六
カリ―中尉だけではない、私も手をかした	K・ルース	六
戦車に首をくくりつける	M・ダムロン	六
発砲しながら偵察せよ	A・エーカーズ	六
屍体の耳を切る	C・ステイヴンス	七

VII 政 策

象 も 敵	R・コーガット	一三
“自由発砲地帯”	P・ウィリアムズ	一七
IDカードをあつめる	J・ガルバリ	一九
私が証言しているこの瞬間にも	M・マッカスカ―	二三
政策と人格	E・マーフィ	二三

VIII 作 戦

漁民を「農民」にする	J・バーチ	一三五
住民の強制移住	E・キーズ	一三六
老婆はなぜ爆弾を投げるのか	M・マッカスカ	一三七
人間以下	W・ハットン	一三八
サイゴン軍はたすけない	E・サックス	一三三

IX 銃 後

ナパーム	S・カミル	一三七
枯葉作戦と感知装置	S・バンジ	一四三
化学戦争	J・ダフィ	一四九
屍体勘定・CSガス・ラオス・カンボジア越境	M・ハンター	一五五
「ベトコン」の捕虜となる	M・ネルソン	一五九
北ベトナムで捕えられた捕虜の母として	V・ウォーナー	一七〇
「難民」づくりと「難民」対策	J・クラーク	一七四

目次

解 說	（陸井三郎）	……	一八
跋	（古在由重）	……	一九

I 証言の意味

ベトナムで最後に死ぬのはだれか。アグニュー副大統領は「自由を守るためにアメリカの極上の息子たちがアジアの水田で死んでいる」と言ったが、



I 証言の意味

まえがき

上院議員マーク・O・ハットフィールド

ウィリアム・カリー中尉（一九六八年三月のソンミ虐殺事件の直接的加害者のひとり）に対する告発によって、わが国の道徳的感受性が呼びさまされています。この事件はこれまでもまして明らかに、わが国がインドシナでの行動に関して直面しなければならぬ道徳上の基本問題に焦点をあてています。

国防省はカリー告発に関する最近の声明で、次のように言っています。

「陸軍省はいままでも、アメリカ将兵の関係した戦争法規の実定法的違反をすべて調査するという不変の政策をとる道義的・法的責務を負ってきた。

戦場での違反行為に関するすべての申立ては——責任あるとされるものの位階ないし地位にはかかわりなく——徹底的に調査されなければならない。」

インドシナでのアメリカ軍の政策および行為に関連して、最近私の注意をひきつけた証言があります。これは深刻かつ重大な意義をもつものです。